
「幸福は糾える縄の・・・」

どり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「幸福は糾える縄の・・・」

【Nコード】

N7475S

【作者名】

どり

【あらすじ】

ずずの話が暗くて、こっちまで息つまりそうなので、あまり考えなくていい話を書きました。

ずずの職場で既婚の細江 孝一 消防士の話です。

おもしろい話、お願いしたら、こんな話、してくれました。つまらないなあ、って照れてましたけど、いかがでしょうか。

(前書き)

ずずの流れの中ですが、ずず他でてきません。

ちよつと不思議な話を、お気楽に書いてみましたってところで。
ファンタジーでもいいかな？

え？オレ？

オレが何の話をしろって？

一介の消防士だぞ。

そんなおもしろい話なんてある訳ないだろ。

まあ、確かにずずの話は暗すぎる。

火災だの、TPSDだの、トラウマだの、

馬だの鹿だのっっちゃう話の方が、おもしろいに決まっているだが、おれにそういう経験があるかって？

消防の話、してもまじめすぎてつまらんだろ。

まあ、奥さんの話でもするか。

結婚したのは3年ほど前で、

つきあったのはまあ、1年ぐらいかなあ。

最初はそんな、つきあうなんて思ってたんだよ。

いっちゃなんだが、オレ、もてる。

自他共に認める、イケメン。

学生時代から、まあ、女友達には不自由しなかった。

キヤアキヤア取り囲んでくれてさ、

何かとくれたりとかさ、メシなんかも食わせてくれるしさ、

このまんまでもいいか、と思ってたぐらい。

学生時代はアルバイトでホスト、やってたぐらいだからなあ。

周りの女は美人でグラマーで、金持ちで、車は外車でって、もう、選り取りみどりって感じ。

仕事を始めても、毎日、遊んでいたなあ。
でも、そんなある日、彼女が横に座ってたんだよ。
どっかの飲み屋だったと思うけど。

ちょっと度の強い眼鏡でさ、今でもだけど。
ひつつめ髪っていうのか、無造作に後ろで縛ってあるだけで、
化粧もちょっとしましたって、感じで、
ようはぱつとしない娘だったんだけど、

覚えているのは、消防士ですって自己紹介したら、
レンズの向こうで、眼輝かせて、
「わあ、かっこいいんですね」

子供だと思ったよ。
子供の反応なんだよ、それって。
「消防士さん、カッコイイ！」ってやつ。

それを、女子大生っていう娘がやってるっていうのが、
なんかおかしかったし、
オレ自身、消防士ってカッコイイって思ってた子供だったから、
妙にストンとはまっちゃったというか、
気が付いたら、携帯のアドレス、交換してた。
酔ってたからかもしれないけどなあ。

で、それっきりだと思って期待も何にもなかったんだけど、
って、特にアドレス、消したりしたわけでもないけど、
しばらくして、市内の短大で小火があって、
出動したものの、まあ、大した事なく終わったんだけど、
その後、彼女からメールが来て、

「学校に来てくれてありがとう。見ててかつこよかったです」

その時、やっと彼女の学校だったのかって知ったぐらいだったんだけど、

つい、返信メールしちまった。

「よかったら、またあいませんか」

あの髪型、あの眼鏡、やぼったい服。ぺったんこの靴。でも、笑顔は可愛いなって、思っちゃったよ。それと、地のままなのもいいなって。

ファッション同様、着飾ってないんだよ。彼女。言うこと、やること、みんな地のまま。

だから、こっちも気楽でいいっていうか。

彼女と会ってるとホッと出来るっていうか。

メシも食わせてもらってたけど、手料理だったし、それも家庭料理っていうか、派手じゃないけど、でも、おいしかったし。

それとな、彼女を見てると、

仕事、頑張らないとな、って気持ちにさせてくれるんだよ。

遊んでちゃ、ダメだ。ホスト気分じゃダメだ。

やりたかった消防の仕事、一生懸命にならなきゃダメだ。

彼女にそう言われているような気がしたんだ。

まあ、いつのまにやら、すっかり参ってたというか、それで一緒になろうということ。

え、すっかりノロけ話だったか？

だから、おもしろい話なんかないって、最初に言ったろ？

まあ、おもしろいかどうかは別にして、最後にな。

実は新婚旅行、外国に行く予定だったんだけど、旅行に行く直前、空港にまで行ってだぞ、パスポートがないって言い出したんだ。

青ざめた顔でカバン、ひっくり返すんだけど、出てこない。

いや、結構、ドジで、天然だって事は、

もう、その頃わかってたから、

あ、またやったなって感じだったんだけど、

出発時間は迫ってくるし、

とうとう旅行は断念することになったちゃったんだ。

彼女はヒックヒック泣きながら帰るし、

家に帰ることなんか恥ずかしくてできなくて、

急いでホテル取って、泊まったんだけど、

チェックインの時に、ポトツて落ちたのが、パスポート。

大事な物だからって、カバンのいつもは使わないところに入れたんだそうさ。

それをすっかり忘れてたんだとさ。

まあ、またそこで大泣きでさあ。

もう、こっちは呆れるばかりで、怒る気にもならなくて、こりゃ、先が思いやられるぞって、

新婚早々、思ったのも事実なんだけど。

いや、今度はノロけ話じゃないって。

その夜、彼女とホテルのTV見てたんだけど、海外ニュースで、テロ爆発をやってたんだよ。

コワイね、って言ってたら、

どこかで聞いたことある名前だっというだろ。

急いで新婚旅行の行程を見てみたら、

なんと、その夜、泊まる予定のホテルだったんだよ、そこ。

もし、予定どおりに行ってたら、

もし、彼女がパスポートを忘れてなかったら、

どうなってたんだろ。

そう思うとゾツとしたね。

彼女も青い顔、してたよ。

もしかすると、この娘、幸運の女神か？

そう思ったら、なんか、惚れ直したというか、

その夜は、二人抱き合って寝たよ。

まあ、それは予定どおりだったんだけどね。

そうそう、もう一つ。

次の朝、彼女が言うには、

夢を見たんだとさ。

夢の中で女の子が、ペコンって頭さげるんだって。

「よろしく願います」って言うのと、

彼女のお腹の中に消えていったんだとさ。

だから、生まれる子は、女の子だって言ってた。

そしたら、やっぱり女の子だったんだよ。

だから、名前も女の子しか考えてなかった。

柚芽^{ゆめ}ってね。

うーん、おもしろい話ってこんなとこしかないぞ。

あ、決定的なの一つ。

奥さんの手料理の話、さっきしたろ。

実はアレ、全部おかあさんの手料理だったんだ。

彼女は決定的に料理、ダメなタイプだったんだよ。

だから、砂糖と塩、醤油とソース、間違えるぐらいは可愛いぐらいで、

包丁は持ち方から言わなきゃならなかったし、

天ぷらやフライは、火災報知器がならないか、心配で、付いてなきゃならないし、

関東煮に味噌ぶちこむものだから、おでんやらみそ汁やらわけわからぬいし、
食える物がでてくるようになるまで、だいぶ時間がかかったなあ。

それが一番おもしろい話かもしれないな。

嫁さんには注意しろよ。

まあ、何しゃべってもノロけになるぐらいが、一番いいんだけどね。

(後書き)

こうやって、どんどんスピノフしていくのでせうか。
本編も進まないのに。

とにかく、下手な鉄砲です。よろしくです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7475s/>

「幸福は糾える縄の・・・」

2011年10月8日18時11分発行